

山東省における日本図書の調査

橋本 義則・高木 智見

山口大学

はじめに

山東省における日本図書（日本で作成・刊行されて中国に渡った図書と中国で作成・刊行された日本図書）の所在確認のための調査は、平成12年11月近代の日本と深い関わりをもった山東省の済南市と青島市の二都市において、山東省図書館・山東大学図書館・青島大学図書館・青島市図書館の四所蔵機関を対象として実施した。本稿はその際に作成し、提出した調査報告に基づき、高木・橋本両名が再度報告内容を検討して作成したものである。

一 山東大学（山東省済南市）

山東大学における日本図書の調査は、かつて日文研の客員教授をつとめられた同大学外語学院副院長の高文漢教授の仲介によって実現した。山東大学ではまず図書館で同館長である蘇位智教授に日本図書の所蔵状況を説明していただいた。蘇位智教授は、図書館本館で約一時間半にわたって、山東大学図書館の来歴および現在の活動状況、ならびに将来の I・T 化構想、満鉄関係図書・文書の収集・整理事業の進捗状況などについて詳細に説明され、また山東省内における日本関係図書の収蔵状況についても大まかな説明をいただいた。その後、本館図書館において地方志室・普通線装本大庫・参考諮詢室・特蔵部・社会科学系雑誌書庫などを視察・調査した後、さらに高文漢教授の案内で図書館とは別のキャンパスにある文博学院・歴史系貸出処および外語学院日本語資料室を実見・調査した。事前の情報では、特蔵部（古籍善本・珍本所蔵部の意）に江戸時代の版本を収蔵するとのことであったが、特蔵部を含め、日本関係文献に関しては、利用者が極度に限定されているためか（あるいは日本文化そのものが重視されていないからか）、いずれの部署においても未整理の状態であり、結局、明治以前に出版刊行された書籍は目睹することができなかった。なお一部の部署では所蔵目録が作成されていたが、網羅的なものであるとは言えず、正確な冊数すら確定できない状態である。以下、山東大学各部局・部署における日本図書の収蔵状況についてやや詳しく記すこととする。

(一) 山東大学図書館

<地方志室>

旧満鉄関係図書550冊程度蔵している。その主なものは明治43～昭和15年にかけての『撫順炭硯統計年報』・昭和7～18年の『満鉄調査月報』・昭和15年の『支那経済年報』などである。蘇位智教授によれば、現在北方交通大学を中心にして旧満鉄関係図書の所在調査が中国全土で行われており、山東大学図書館でもこれに協力しているとのことであった。

<普通線装本大庫>

500冊程度の昭和初期から中期の雑多な一般書を蔵するが、未整理である。なお、多数の線装本も収蔵していたが、いずれも刊行年は昭和期を主とした新しいものであった。

<参考諮詢室>

現代の日本図書3000冊を蔵する。この中には『天理善本叢書』・『新訂増補国史大系』などの基本史料や『日本歴史地名大系』・『日本国語大辞典』・『大漢和辞典』など事典・辞典類がある。この一部には提携大学である山口大学からの受贈本が含まれている。参考諮詢室では図書館三階の書庫にも4000冊の日本図書を蔵するが、いずれも昭和の刊行にかかり、代表的なものとして『古事類苑』・『日本随筆大成』・『吉川幸次郎全集』などがある。

<特蔵部>

日本図書250冊ほどを所蔵する。この中には江戸時代刊行のものもあるとのよしであるが、現在整理中であり詳細は不明である。ただ実際に確認した範囲では明治出版の『佳人之奇遇』などがあつたが、殆どは昭和後期の『大系世界の美術』・『浮世絵聚花』・『旅順博物館図録』など大型本・美術本を蔵するだけであると見られる。なお現在来年度に向け善本目録を作成中であり、これが刊行されればより詳しい内容が判明するものと期待される。

(二) その他の部局

<文博学院>

文博学院では歴史系貸出処の書庫に入り、無灯の中で日本図書を検索した。閲覧及び整理のための部屋には蔵書・分類・書名による日文書カード目録が2箱づつ計6箱備えられていたが、いずれも明治以後刊行の新しい書籍を対象とするものであり、これより古い書籍については手がかりを得なかった。

<外語学院>

外語学院では高文漢教授の案内で日本関係図書が収蔵される日本語資料室を実見した。ここには3,300冊程度の日本図書が所蔵されているが、それらはおおむね外語学院での日本語教育に用いられる日本語教科書や辞書などであり、その他には『現代日本文学大系』など若干の現代文学書を収蔵するだけである。

二 山東省図書館（山東省済南市）

山東大学外語学院副院長高文漢氏の紹介で、山東省図書館外文部隋冬館員の案内を得て日本関係図書を実見した。隋冬館員の説明によれば、山東省図書館では外文部に日本図書凡そ6万冊を所蔵する。山東省図書館は現在、最新設備を備えた六階建ての大規模な新館を建築中であり、収蔵図書の大半は旧館からの移送過程にあつて梱包されたままの状態のものが多かった。幸い日本図書は最近開梱され、専用のフロアーに別置されていたため調査が可能であったが、目録・カードなどが一切なく、架蔵されている書物を直接手にとって調査した。なおカード類の作成は将来的には可能とのことであるが、実現の予定はまだ立っていないとのことであった。日本図書に関する詳細は以下の通りである。

<満鉄関係>

凡そ2万5000冊を所蔵する。昭和初年以降のものが多く、同一本が多数あることが特色である。また蔵書印を有する本が多く（例えば山東師範学堂・山東省教員訓練所・済南青年学校・済南日本中学校・済南第二日本国民学校・山東省公署秘書處図書室・済南日本商工会議所・済南日本図書館・華北交通会社巡回書庫など）、それらの内容から、済南の旧日本租界、および山東省に散在していた日本人社会における各種学校、団体の図書館、図書資料が多数を占めていることが分かる。隋冬館員の説明によれば、山東省図書館は一九四九年の人民共和国成立以降、省内の日本関係書物を一括して集中管理するようになったとのことである。また、満鉄関係の日本書は、支所が置かれていた青島市の青島市図書館にも収蔵されているはずとの情報をいただいた。

<新本>

1万冊程度。現代までの新刊本を開架式書架に並べていたが、特に見るべきものはない。なお、日本人による寄贈本が少なくない。

<雑誌>

2万5000冊程度。隋冬館員の説明によれば、月刊誌を中心に1960年代～80年代後半には200種類余りを購入していたが、90年代以降100種類程度に減少したとのことである。内容的には文系・理系を問わずバラエティに富んでいたが、医学・工学・理学など自然科学関係のものが大半を占めるようであった。選定は専門家及び読者の要求によっているとのことである。

三 青島大学図書館（山東省青島市寧夏路308号）

山東大学外語学院副院長高文漢教授に青島大学外語学院王偉軍教授を紹介いただき、王教授の骨折りによって同大学図書館副館長の房運氏に同図書館の日本図書所蔵部局を案内していただいた。まず日本図書は2万冊近くが贈書閲覧室に蔵されているが、いずれも現代の寄贈本で、寄贈者は三浦道明・上野登・伊藤登・青木俊和・酒井忠・大屋祐雪・直塚松子の諸氏及び下関日中友好協会・大阪花甲協会などであり、寄贈本には例えば『岩波講座世界歴史』などがあるが、殆どを一般書が占めている状況である。これとは別に学生向け図書として1

万冊の日本図書を所蔵するが、いずれもごく最近のものばかりであった。中文書においても人民共和国成立以前の書籍はほとんどないとのことであり、それは青島大学図書館の歴史に制約されているものかと思われる。なお、青島大学は近年、青島医学院ならびに青島紡織学院を併合したばかりであり、当該部局には当該分野に関係した日本語の専門書（いずれも現代のもの）を相当量収蔵するとの情報を房運氏から得たが、図書館とは部局が異なり、互いに緊密な関係を持たないとのこと調査できずに終わった。

四 青島市図書館（山東省青島市山東路99号）

青島大学外語学院の王偉軍教授に青島大学の紹介状を用意していただき、青島市図書館の調査を行った。調査ではまず同図書館長の徐家駿氏から図書館の来歴や姉妹都市下関との関わりについて話をうかがった。それによれば、現在新館を建築中で、いずれ移送のための梱包が始まるとしばらく利用できなくなるとのことであった。日本図書は全館で2万冊ほどを所蔵する（実際に所蔵している書庫を実見した感じでは、あるいは概数で3万冊に近いかと思われたが、やはり実数は不明である）が、原則的に対外非公開となっているとのことであった。ただし、徐家駿館長が友好都市である下関市の市立図書館の視察旅行を終えて帰国したばかりであったため、非常に好意的であり、書庫内ではメモを取らないとの了解のもとで見学が実現した。所蔵されている日本図書は明治から昭和のものが多く、その大部分は青島占領時のもので、山東省図書館と同様、青島にあった各種の学校図書館や機関の図書館の蔵書印を有するものがあり、その中には青島で日本人が刊行した本も含まれているとのこと、一部を実見できたが、未整理のうえカードも無く、詳しい所蔵状況は判明しない。また近年においては寄贈本が2000冊程度（例えば『読書纂余』・『時事年鑑』など）あり、いずれも青島大学図書館でも寄贈者として見えた大阪花甲協会によるものである。また満鉄資料も800冊程度（例えば『北支満鉄月報』・『満州鉄道建設秘話』・『北支の羊毛』・『北支の鉱業』など）の存在を確認することができたが、これも未公開のためメモを取ることが認められなかった。

おわりに

以上、山東省の主要な二都市において日本図書の所在確認のための調査を実施したが、その成果として掲げられるものは、わずかに満鉄関係図書の所在を確認したことと、それを一覧化するための調査が中国において始められているとの情報を得たことに過ぎない。なお、当初調査先として挙げられていた済南市在住の某書家については、山東省文化庁外事処の張從軍先生に調査実現のために交渉していただいたが、残念ながら滞在期間中に某書家の許可を得ることができず、調査は実現しなかった。